

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号
特許第4917151号
(P4917151)

(45) 発行日 平成24年4月18日 (2012. 4. 18)

(24) 登録日 平成24年2月3日 (2012. 2. 3)

(51) Int. Cl.

F I

A 6 1 F 5/37 (2006. 01)

A 6 1 F 5/01 (2006. 01)

A 6 1 F 5/37 Z

A 6 1 F 5/01 Z

請求項の数 17 (全 14 頁)

(21) 出願番号	特願2009-517880 (P2009-517880)	(73) 特許権者	507186551
(86) (22) 出願日	平成20年6月4日 (2008. 6. 4)		株式会社 女性医療研究所
(86) 国際出願番号	PCT/JP2008/060269		東京都豊島区駒込1丁目31番10号 1
(87) 国際公開番号	W02008/149887		階
(87) 国際公開日	平成20年12月11日 (2008. 12. 11)	(74) 代理人	110000486
審査請求日	平成21年10月29日 (2009. 10. 29)		としえ特許業務法人
(31) 優先権主張番号	特願2007-149912 (P2007-149912)	(72) 発明者	三井 桂子
(32) 優先日	平成19年6月6日 (2007. 6. 6)		東京都豊島区駒込1-31-10
(33) 優先権主張国	日本国 (JP)	(72) 発明者	島田 誠
			東京都世田谷区中町3-1-10
		審査官	田中 玲子

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 骨盤臓器脱防止及び治療装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

装着者の女性器に接触させて装着される、骨盤臓器脱を治療又は予防するための器具において、

前記女性器に向かう部材と、
前記部材を装着者の女性器に密着させるように保持する保持部材と、を備え、
前記部材は、柔軟部材で構成されたことを特徴とする骨盤臓器脱防止及び治療器具。

【請求項 2】

前記部材は、形状保持機能を有する形状記憶素材で形成されたことを特徴とする請求項 1 に記載の骨盤臓器脱防止及び治療器具。

【請求項 3】

前記部材は、半球状、球状、半楕円球状、楕円球状、卵状のうちのいずれかの形状であることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の骨盤臓器脱防止及び治療器具。

【請求項 4】

前記部材は、前記女性器に向かう押圧力を有する凸状部材であることを特徴とする請求項 1 ～ 3 の何れか一項に記載の骨盤臓器脱防止及び治療器具。

【請求項 5】

前記凸状部材の凸状部の中は、同質材料で埋められたもの、くり抜いてあるもの、空洞であるもの、のうちのいずれかであることを特徴とする請求項 4 に記載の骨盤臓器脱防止及び治療器具。

【請求項 6】

前記部材は、前記女性器から脱出する骨盤臓器を受け止める凹状部材であることを特徴とする請求項 1～3 の何れか一項に記載の骨盤臓器脱防止及び治療器具。

【請求項 7】

前記部材を支持する支持部材をさらに備える請求項 1～6 の何れか一項に記載の骨盤臓器脱防止及び治療器具。

【請求項 8】

前記部材を支持する支持部材と、

該部材の前記女性器又は当該女性器から脱出する骨盤臓器と接触する表面を覆う接着または装着交換可能な被覆シートと、をさらに有する請求項 1～6 の何れか一項に記載の骨盤臓器脱防止及び治療器具。

10

【請求項 9】

前記被覆シートは、ゲル、繊維、消臭繊維のうちのいずれかで構成されていることを特徴とする請求項 8 に記載の骨盤臓器脱防止及び治療器具。

【請求項 10】

前記支持部材は、前記部材と同質材料または異質材料で一体に構成されていることを特徴とする請求項 7～9 の何れか一項に記載の骨盤臓器脱防止及び治療器具。

【請求項 11】

前記支持部材は、前記部材の形状を維持する硬さの素材で構成されていることを特徴とする請求項 7～10 の何れか一項に記載の骨盤臓器脱防止及び治療器具。

20

【請求項 12】

前記支持部材の表面は、前記被覆シートで覆われていることを特徴とする請求項 7～11 の何れか一項に記載の骨盤臓器脱防止及び治療器具。

【請求項 13】

前記保持部材は、前記女性器に前記部材を取り付ける位置の調整が可能でかつ着脱自在に取り付けられる取り付け部と、前記取り付け部に空けられた穴とを有し、

前記支持部材の両端は、前記保持部材の穴に入れられていることを特徴とする請求項 7～12 の何れか一項に記載の骨盤臓器脱防止及び治療器具。

【請求項 14】

前記保持部材は、前記女性器に前記部材を取り付ける位置の調整が可能でかつ着脱自在に取り付けられる取り付け部と、

30

前記取り付け部と接続され、骨盤臓器脱出者の腰骨上に係止して腰部上方外周に巻回する長さ調整自在かつ簡易緩締可能な腰ベルトと、

該腰ベルトに接続され、前記部材を骨盤臓器脱出部位に押し上げて保持する長さ調整自在に構成された押し上げ保持ベルトと、を備えたことを特徴とする請求項 1～12 の何れか一項に記載の骨盤臓器脱防止及び治療器具。

【請求項 15】

前記押し上げ保持ベルトは、前記腰ベルトの正面部に間隔をあけて 2 箇所から延出すると共に、前記取り付け部の正面部にあけられた孔及び取り付け部の背面部に開けられた孔を通過し前記腰ベルトの背面部に間隔をあけて 2 箇所に接続されてなることを特徴とする請求項 14 に記載の骨盤臓器脱防止及び治療器具。

40

【請求項 16】

前記取り付け部は、前記押し上げ保持ベルトに対して位置が調整自在であることを特徴とする請求項 14 又は 15 に記載の骨盤臓器脱防止及び治療器具。

【請求項 17】

前記取り付け部は、下着の底にもう一枚布を当て、一方向から開口部を設けて袋を作り、前記部材をその袋に納めて固定する構成であることを特徴とする請求項 13～16 の何れか一項に記載の骨盤臓器脱防止及び治療器具。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

50

【0001】

本発明は、骨盤臓器脱防止及び治療装置に関するものである。

【背景技術】

【0002】

骨盤臓器脱とは、子宮・膀胱・尿道・小腸・直腸などの骨盤内にある臓器が、膣内に落ち込み膣壁と一緒に女性器より外部へ脱出してしまう病気である。

脱出した臓器により、「子宮脱」、「膀胱瘤」、「尿道瘤」、「小腸瘤」、「直腸瘤」と呼称される。また複数の臓器が飛び出すこともあり、「骨盤臓器脱（性器脱）」と総称されている。

【0003】

10

骨盤臓器脱は、一般的に生命に関わることはないと言われている。

しかし、骨盤内の臓器が女性器より外部へ脱出してしまうことにより、粘膜が空気に晒され乾燥し、擦れて出血し歩行が困難になったりする。また、膀胱が脱出することにより、尿道へ影響を及ぼし、尿失禁あるいは排尿困難などの症状を引き起こす。更に直腸が脱出した場合には、排便困難などの症状を引き起こすこともある。前述のように骨盤臓器脱は、日常生活が著しく阻害される病気、いわゆるQOL（Quality Of Life）疾患であり、更年期以降の女性に多く見られると言われている。そして、海外では、50歳以上の女性の半数に見られる症状とも言われている。

【0004】

20

この病気の原因は、骨盤内の臓器（子宮・膀胱・尿道・小腸・直腸）を支えている骨盤底筋群の緩みや損傷により引き起こされるものである。最大の原因は出産にあるといわれている。その他慢性的に腹圧をかける状況も大きな原因とされている。具体的には、喘息、花粉症、職業上の立ち仕事、農業、庭仕事、ある種のスポーツ、便秘、肥満などである。

【0005】

骨盤臓器脱の重症分類は、膣内への落込みや女性器から外部への脱出度合いにより1度から4度までに分類される。軽症なものは膣の中だけでの下垂で1度、膣の出口まで達すると2度、そして膣から外へ出てくるようになると3度、全て脱出すると4度となる。

【0006】

30

骨盤臓器脱の治療は、現在は次の2つの治療法がある。すなわち（1）手術による根治治療（2）リングペッサリーによる治療である。（1）の手術には、膣式手術：前膣壁形成術、膣式子宮全摘手術、後膣壁形成術、Manchester手術、膣上端・仙棘靱帯固定術、Inmon法（腸骨尾骨筋膜固定術）、McCall法（仙骨子宮靱帯固定術）・軽腹式手術：腹式仙骨膣固定術・腹腔鏡下手術：仙骨固定術・膣閉鎖術：LeFort手術などの術式があるが、近年最も有効とされている術式にTVM術式というものがある。これはガインメッシュを用いた手術のため、これまでの術式と比べ再発率が低いとされている。

（2）のリングペッサリーは、ドーナツ状の輪を膣の中に入れることにより、膣を引上げ周辺臓器が落ちてくるのを防ぐ。

【発明の開示】

40

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

前述の手術を希望する患者の中には、これから出産を希望している、あるいは持病のため手術を受けられないケースが多々ある。

【0008】

リングペッサリーによる治療は、異物を長期間膣内に入れるため、感染を併発し「おりもの」が増加し、異臭に悩まされている。また粘膜が傷つき、出血し、さらに当然異物が入っているため、性交障害となる。また膣の形状、大きさなどからリング自体が適応でないケースも多い。また女性の多くがボディーラインを美しく見せようと使用しているコルセットは、腹圧をかけるため骨盤臓器脱を増進する。

50

本発明はこのような課題に対してなされたものであり、出てきている、もしくは出てこうとしている骨盤臓器を押し上げることによって、骨盤臓器脱防止及び治療することが可能な技術を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0009】

本願において開示される発明のうち、代表的なものの概要を簡単に説明すれば、下記のとおりである。

【0010】

(1) 装着者の骨盤臓器脱出部位に向かう押圧力を有する凸状押し上げ部材と、該凸状押し上げ部材の表面を前記装着者の骨盤臓器脱出部位に密着させる凸状押し上げ部材保持手段を備えたことを特徴とする骨盤臓器脱防止及び治療装置である。

10

【0011】

(2) 装着者の骨盤臓器脱出部位に向かう押圧力を有する柔軟部材で構成された凸状押し上げ部材と、該押し上げ部材を前記装着者の骨盤臓器脱出部位に密着させる凸状押し上げ部材保持手段を備えたことを特徴とする骨盤臓器脱防止及び治療装置である。

【0012】

(3) 装着者の骨盤臓器脱出部位に向かう押圧力を有する柔軟部材で構成された凸状押し上げ部材と、前記凸状押し上げ部材を支持する支持部材と、該凸状押し上げ部材の骨盤臓器と接触する表面を覆う交換可能な被覆シートと、該凸状押し上げ部材の被覆シートの表面を前記装着者の骨盤臓器脱出部位に密着させる凸状押し上げ部材保持手段を備えたことを特徴とする骨盤臓器脱防止及び治療装置である。

20

【0013】

(4) 前記(1)乃至(3)の骨盤臓器脱治療及び予防装置において、前記凸状押し上げ部材は、その凸状部の中が全部同質材料または異質材料で埋められたもの、くり抜いてあるもの、空洞であるもの、のうちいずれか1つであることを特徴とする。

【0014】

(5) 前記(3)または(4)の骨盤臓器脱防止及び治療装置において、前記凸状押し上げ部材の凸状部支持部材は、該凸状部と同質材料または異質材料で一体または接着で構成されていることを特徴とする。

【0015】

30

(6) 前記(5)の骨盤臓器脱防止及び治療装置において、前記凸状押し上げ部材の凸状部支持部材は、該凸状部の形状を維持する硬さの素材で構成されていることを特徴とする。

【0016】

(7) 前記(5)または(6)の骨盤臓器脱防止及び治療装置において、前記凸状押し上げ部材の凸状支持部材の表面は、前記被覆シートで覆われていることを特徴とする。

【0017】

(8) 前記(1)乃至(7)のうちいずれか1つの骨盤臓器脱防止及び治療装置において、前記凸状押し上げ部材の凸状部の形状は、半球状、球状、半楕円球状、楕円球状、卵状のうちいずれか1つであることを特徴とする。

40

【0018】

(9) 前記(3)乃至(8)のうちいずれか1つの骨盤臓器脱防止及び治療装置において、前記被覆シートは、ゲル、繊維、消臭繊維のいずれか1つで構成されていることを特徴とする。

【0019】

(10) 骨盤臓器脱出部位を受け止める凹状部材と、該凹状部材を前記装着者の骨盤臓器脱出部位に密着させる凹状部材保持手段を備えたことを特徴とする。

【0020】

(11) 骨盤臓器脱出部位を受け止めるように柔軟部材で構成された凹状部材と、該凹状部材を前記装着者の骨盤臓器脱出部位に密着させる凹状部材保持手段を備えたことを特

50

徴とする。

【0021】

(12) 骨盤臓器脱出部位を受け止めるように柔軟部材で構成された骨盤臓器脱防止及び治療装置と、前記凹状部材を支持する凹状部支持部材と、該凹状部材の内側表面を覆う接着または装着交換可能なシートと、該凹部材を前記装着者の骨盤臓器脱出部位に密着させる包み込み部材保持手段を備えたことを特徴とする骨盤臓器脱防止及び治療装置である。

【0022】

(13) 前記(10)乃至(12)のうちいずれか1つの骨盤臓器脱防止及び治療装置において、該凹状部支持部材は、該凹状部材と同質材料または異質材料で一体または接着で構成されていることを特徴とする。

10

【0023】

(14) 前記(12)または(13)の骨盤臓器脱防止及び治療装置において、該凹状部支持部材は、当該凹状部材の形状を維持する硬さの素材で構成されていることを特徴とする。

【0024】

(15) 前記(10)の骨盤臓器脱防止及び治療装置において、該凹状部材の凸状部支持部材の表面は、前記被覆シートで覆われていることを特徴とする。

【0025】

(16) 前記(12)乃至(15)のうちいずれか1つの骨盤臓器脱防止及び治療装置において、前記被覆シートは、ゲル、繊維、消臭繊維のうちいずれか1つで構成されていることを特徴とする。

20

【0026】

(17) 前記(10)乃至(16)のうちいずれか1つの骨盤臓器脱防止及び治療装置において、前記凹状部材の凹状部の形状は、半球状、球状、半楕円球状、楕円球状、卵状のうちいずれか1つであることを特徴とする。

【0027】

(18) 前記(1)乃至(17)のうちいずれか1つの骨盤臓器脱防止及び治療装置において、前記凸状押し上げ部材、または前記凹部材は、形状保持機能を有する形状記憶素材で形成されていることを特徴する。

30

そして、前記形状保持機能を有する形状記憶素材は、例えば合成繊維、合成樹脂、合金等を用いる。

【0028】

(19) 前記(1)乃至(18)のうちいずれか1つの骨盤臓器脱防止及び治療装置において、前記凸状押し上げ部材保持手段、または前記凹状部材保持手段は、前記骨盤臓器脱出部位に前記凸状押し上げ部材、または前記凹部材を取り付ける位置の調整が可能でかつ着脱自在に取り付けられる取り付け部と、前記取り付け部と接続され、骨盤臓器脱出者の腰骨上に係止して腰部上方外周に巻回する長さ調整自在かつ簡易緩締可能な腰ベルト部と、該腰ベルト部に接続され、前記凸状押し上げ部材、または前記凹部材を骨盤臓器脱出部位に押し上げて保持する長さ調整自在に構成された押し上げ保持ベルトを備えたことを特徴とする。

40

【0029】

(20) 前記(19)の骨盤臓器脱防止及び治療装置において、前記押し上げ保持ベルトは、前記腰ベルト部の正面部に間隔をあけて2箇所から延出すると共に、前記凸状押し上げ部材、または前記凹状部材取り付け部の正面にあけられた孔及び取り付け部の背面部にあけられた孔を通過し、前記腰ベルト部の背面部に間隔をあけて2箇所に接続されてなることを特徴とする。

【0030】

(21) 前記(19)または(20)の骨盤臓器脱防止及び治療装置において、前記凸状押し上げ部材、または前記凹状部材取り付け部材は、前記押し上げ保持ベルトに対して

50

位置が調整自在であることを特徴とする。

【0031】

(22) 前記(1)乃至(18)のうちいずれか1つの骨盤臓器脱防止及び治療装置において、前記凸状押し上げ部材、または前記凹状部材取り付け部は、下着の底にもう一枚布を当て、一方向から開口部を設けて袋を作り、前記凸状押し上げ部材、または前記凹状部材をその袋に納めて固定する構成であることを特徴とする。

【発明の効果】

【0032】

本願発明によれば、装着者の出てきた骨盤臓器にストレス(痛み)を与えることなく、脱出部位に向かう押圧力を有する柔軟部材で構成された凸状押し上げ部材及び凹状部材の被覆シート面で受けて違和感のないように保持されているので、出てくる骨盤臓器の形状に合わせて変化したとしても、腔内の密閉された空間のため、絶対の容積を確保し、他の部分から脱出することはない。

【図面の簡単な説明】

【0033】

【図1】本願発明による一実施例の凸状押し上げ部材の凸部全部を同質材料または異質材料で埋めてあるものの概略構成を示す図である。

【図2】本願発明による他の実施例の凸状押し上げ部材の凸部内をくり抜いてあるものの概略構成を示す図である。

【図3】本願発明による他の実施例の凸状押し上げ部材の凸部の内部を空洞にしたものの概略構成を示す図である。

【図4】本願発明による他の実施例の凸部の機能を持ったクリップタイプの概略構成を示す平面図及び断面図である。

【図5】図4の実施例の凸部の機能を改良したクリップタイプの概略構成を示す平面図及び断面図である。

【図6】本願発明による他の実施例の凹状部材の概略構成を示す図である。

【図7】本願発明による他の実施例の骨盤臓器脱出部位に前記凸状押し上げ部材(または前記凹状部材)の取り付け部の概略構成を示す正面図である。

【図8】図7の後側から見た背面図である。

【図9】図7及び図8における保持ベルト及び取り付け部の構成を前記凸状押し上げ部材(または前記凹状部材)側から示す図である。

【図10】図7及び図8における保持ベルト及び取り付け部の構成を前記凸状押し上げ部材(または前記凹状部材)の反対側から示す図である。

【図11】本願発明による他の実施例の凸部の機能を持った下着を示す模式図である。

【符号の説明】

【0034】

100A…凸部の中を全部同質材料または異質材料で埋められている凸状押し上げ部材

100B…凸部の中をくり抜いてある凸状押し上げ部材

100C…凸部の中を空洞にした凸状押し上げ部材

100D…凹状部材

1…柔軟部材で構成された凸状押し上げ部

2…凸状部支持部材

2A…凸状部の形状を維持する硬さの素材

3…接着または装着交換可能な被覆シート

4…凸状押し上げ部の中をくり抜いた空間部分

5…凸状押し上げ部の空洞部分

6…調整手段

7…腰ベルト

8…調整取り付け部

8A, 8B…腰ベルトの保持ベルト取り付け位置

10

20

30

40

50

9…取り付け部
10…穴
11…保持ベルト
12…D管
13…女性の下着

【発明を実施するための最良の形態】

【0035】

以下、本願発明を実施例に基づいて説明する。

【0036】

なお、本願発明の実施例において、同一機能を有するものは、同一符号付け、繰り返しの説明は省略する。 10

【0037】

図1乃至図3は、本願発明による凸状押し上げ部材の一実施例の概略構成を示す図であり、図1は全部同質素材で埋めてあるものの概略構成を示す図、図2は内部をくり抜いてあるものの概略構成を示す図、図3は中を空洞にしたものの概略構成を示す図である。

【0038】

前記図1乃至図3の各々の(a)は上から見た平面図、(b)は(a)図のX-X線で切った断面図、(c)は(a)図のY-Y線で切った断面図、(d)は裏から見た平面図である。

【0039】

20

図1乃至図3において、100Aは凸状押し上げ部材の凸部の中を全部同質材料または異質材料で埋められている凸状押し上げ部材、100Bは凸状押し上げ部の中をくり抜いてある凸状押し上げ部材、100Cは凸状押し上げ部を空洞にした凸状押し上げ部材である。

【0040】

そして、1は装着者の骨盤臓器脱出部位に向かう押圧力を有する柔軟部材で構成された凸状押し上げ部、2は凸状押し上げ部1を支持する凸状部支持部材、3は前記凸状押し上げ部材100A、100B、100Cのそれぞれの骨盤臓器と接触する表面を覆う接着もしくはまたは装着交換可能な被覆シート、4は凸状押し上げ部材1の中をくり抜いた空間部分、5は凸状押し上げ部の空洞部分である。前記柔軟部材には、例えば、天然繊維、化学繊維、合成繊維、合成ゴム等を用いる。近年天然ゴムは、皮膚障害の発生または発生の恐れがあるため、その使用が制限されている。 30

【0041】

本願発明の骨盤臓器脱防止及び治療装置の一実施例は、図1乃至3に示すように、装着者の骨盤臓器脱出部位に向かう押圧力を有する柔軟部材で凸状押し上げ部材1を構成し、該凸状押し上げ部1の骨盤臓器と接触する表面を被覆シート3で覆う。該被覆シート3の表面を前記装着者の骨盤臓器脱出部位に密着させた状態で、前記凸状押し上げ部材1を保持するように構成されている。

【0042】

なお、前記被覆シート3は必ず使用しなければならないものではなく、必要に応じて覆えばよい。 40

【0043】

前記凸状押し上げ部1の凸状部支持部材2は、該凸状押し上げ部1と同質材料または異質材料で一体または接着で構成されている。また、前記凸状押し上げ部1の凸状部の形状は、半球形状、球形状、半楕円球形状、楕円球形状、卵形状等が好ましい。その柔軟部材の素材は、例えば、硬度約10度乃至40度の硬さを有するシリコンゴムを用いる。シリコンゴムは最適な皮膚当接性が得られると共に、適度な柔軟性及び弾力性が得られ、骨盤臓器脱出部位の対応箇所において、骨盤臓器脱出部位へ向かい最適な押圧力を有する。

【0044】

図4及び図5は、本発明による他の実施例の凸部の機能を持ったクリップタイプの概略 50

構成を示す断面図であり、(a)は上から見た平面図、(b)は(a)のY-Y線で切った断面図である。

【0045】

図6は、本願発明による実施例3の凹状部材の概略構成を示す図であり、(a)は上から見た平面図、(b)は(a)図のX-X線で切った断面図、(C)は(a)図のY-Y線で切った断面図である。

【0046】

また、足を閉じた時に、横からの圧力でつぶされてしまうと、図4に示すような球状の凸部の機能を持ったクリップタイプの構成では、凸部のRが保持できずに尖ってしまうため、違和感になる。それを防ぐため、前記凸状押し上げ部材の凸状部支持部材2は、図5の別の斜線で示すように、前記凸状部の形状を維持する硬さの素材2Aで構成されている。この素材2Aとしては、例えば、硬度約40度乃至80度の硬さを有するシリコンゴムを用いる。

【0047】

そして、両サイド(前と後)を実線の矢印で示すように手でつまみ、つまんだまま腔内に挿入し、離すと、点線矢印で示すように外側に広がりようとする力が働いて、当該凸状押し上げ部1は固定される。このように、凸状部の形状を維持する硬さの素材2Aで支持することにより、柔軟部材で構成された凸状押し上げ部1が腔内にある時は、外側へ戻そうとする力でそこに納まるよう固定されるので、腔から脱出するのを防ぐことができる。

【0048】

前記被覆シート3は、ゲル、繊維、消臭繊維等で構成され、骨盤臓器と接触する表面を覆うように凸状押し上げ部材100A、100B、100Cのそれぞれ表面に接着または交換可能に装着される。

【0049】

なお、前記凸状押し上げ部1及び凸状部支持部材2は、消臭効果が得られるような部材とすることもある。例えば、活性炭、竹炭、木炭などの消臭部材を混入して形成すること、あるいは内部に中空部を形成し、その中に消臭部材を封入すること等が考えられる。そして、前述したように、骨盤臓器の脱出症状に応じて前記凸状押し上げ部材100A、100B、100Cのうちから最適なものを選択して使用する。

【0050】

さらに、前記凸状押し上げ部の中をくり抜いてある凸状押し上げ部材100Bを裏返し、そのくり抜いた内部の上に、図6に示すように、被覆シート3を貼り付けて凹状部材100Dとすることもできる。

【0051】

すなわち、骨盤臓器脱出部位を受け止めるように柔軟部材で構成された凹状部材100Dと、前記凹状部材を支持する凹状部支持部材2と、該凹状部材の内側表面を覆う接着または装着交換可能な被覆シート3と、該凹状部材を前記装着者の骨盤臓器脱出部位に密着させる包み込み部材保持手段を備えた骨盤臓器脱防止及び治療装置である。

【0052】

前記凹状部支持部材2の表面を前記被覆シート3で覆って使用することもできる。

【0053】

また、前記凸状押し上げ部材または凹状部材を形状保持機能を有する形状記憶素材、例えば合成繊維、合成樹脂、合金等で形成する。

このように前記形状記憶素材で形成された凸状押し上げ部材または凹状部材によれば、例えば装着者が前述した固定された凸状押し上げ部材または凹状部材では痛み等の違和感がある場合、装着者が自由自在に凸状押し上げ部材または凹状部材の形状を変えて、痛みや違和感を解消することができるので、骨盤臓器脱防止及び治療が可能となる。

次に、前記本実施例の骨盤臓器脱防止及び治療装置における凸状押し上げ部材保持手段、または前記凹状部材保持手段について説明する。

【0054】

図7は、前記骨盤臓器脱出部位に前記凸状押し上げ部材（または前記凹状部材）が取り付け位置調整可能でかつ着脱自在に取り付けられる取り付け部の概略構成を示す正面図、図8は図7の後側から見た背面図である。

【0055】

本実施例の骨盤臓器脱防止及び治療装置における凸状押し上げ部材保持手段は、図7及び図8に示すように、骨盤臓器脱出者の下着13の腰骨上に係止して腰部上方外周に巻回する長さを調整する調整手段6と簡易緩締可能な腰ベルト7が備えられている。前記調整手段6としては例えばD管等を用いる。

【0056】

前記腰ベルト7には、前記凸状押し上げ部材（または前記凹状部材100D）100A、100B、100Cのうちの1つを選択して取り付け部9の調整が可能でかつ着脱自在に取り付けられる調整取り付け部8が備えられている。該調整取り付け部8は例えばD管等を用いる。

【0057】

前記調整取り付け部8は、前記凸状押し上げ部材（または前記凹状部材）100A、100B、100Cのうちの1つを骨盤臓器脱出部位に押し上げて保持する保持ベルト11に接続されている。

【0058】

前記押し上げ保持ベルト11は、前記腰ベルト7の正面部に間隔をあけて2箇所8A、8Bから延出すると共に、前記凸状押し上げ部材（または前記凹状部材）取り付け部9を通過し、図8に示す腰ベルト7の背面部に接続されている。

【0059】

図9及び図10に示すように、保持ベルト11は取り付け部9に固定しないで、取り付け部9に開けられた孔を自由に行き来できる構成にすることにより、取り付け部9は、保持ベルト11に対して位置が調整自在となる。

前記凸状押し上げ部材（または前記凹状部材）取り付け部9は、硬めの布、または柔軟性のある樹脂材が恥骨部分位までの下着の底に設けられている。そうして、もう一枚布を当て、一方向から開口部を設けて袋を作り、前記凸状押し上げ部材（または前記凹状部材）100A、100B、100C等のうち骨盤臓器の状態によって選択しその袋に納めて固定する。

【0060】

また、ボタンホールのような要領で穴10を作り、前記凸状押し上げ部材100A、100B、100C、包み込み部材100D等のうち骨盤臓器の状態によって選択し、選択された凸状押し上げ部材または凹状部材の両サイドの凸状部支持部材2を入れて固定する。

【0061】

さらに、症状が軽い場合には、図11に示すように、前記凸状押し上げ部材1（または前記凹状部材）の機能を持った下着を適用することで十分骨盤臓器脱出を防止することができる。

【0062】

以上の説明からわかるように、本願発明によれば、装着者の出てきた骨盤臓器にストレス（痛み）を与えることなく、脱出部位に向かう押圧力を有する柔軟部材で構成された凸状押し上げ部材の被覆シート面で受けて違和感のないように保持されているので、出てくる骨盤臓器の形状に合わせて変化したとしても、腔内の密閉された空間のため、絶対の容積を確保しているため、他の部分から脱出することはない。

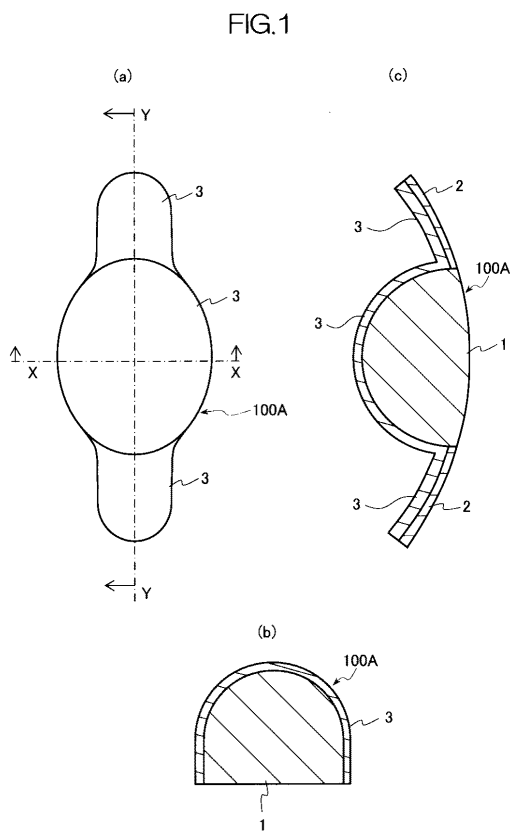
よって、骨盤臓器脱による諸症状に悩む女性が、日常生活に不便さを感じることなく、かつ快適な暮らしができ、しかも臭い問題をクリアして使用できる骨盤臓器脱防止及び治療装置を提供することができる。

【産業上の利用可能性】

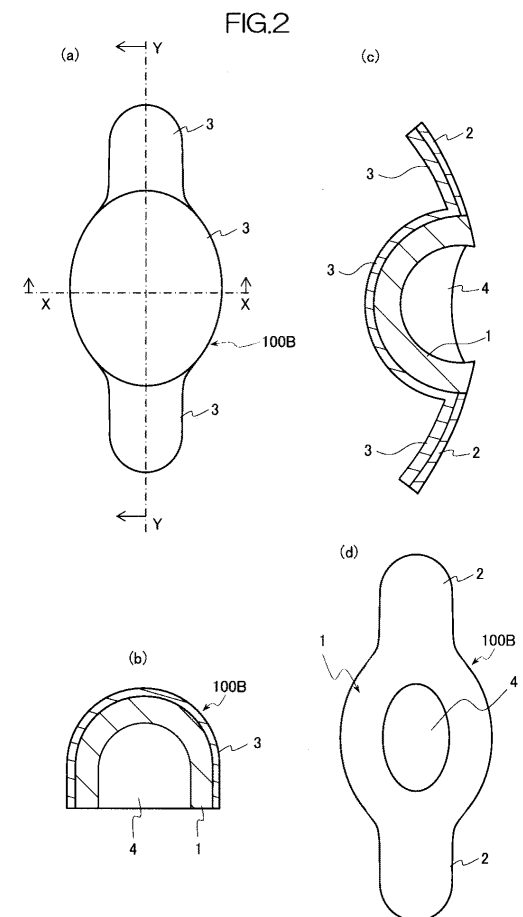
【 0 0 6 3 】

本願発明は、医療機器及び介護用品等の産業に利用できる。

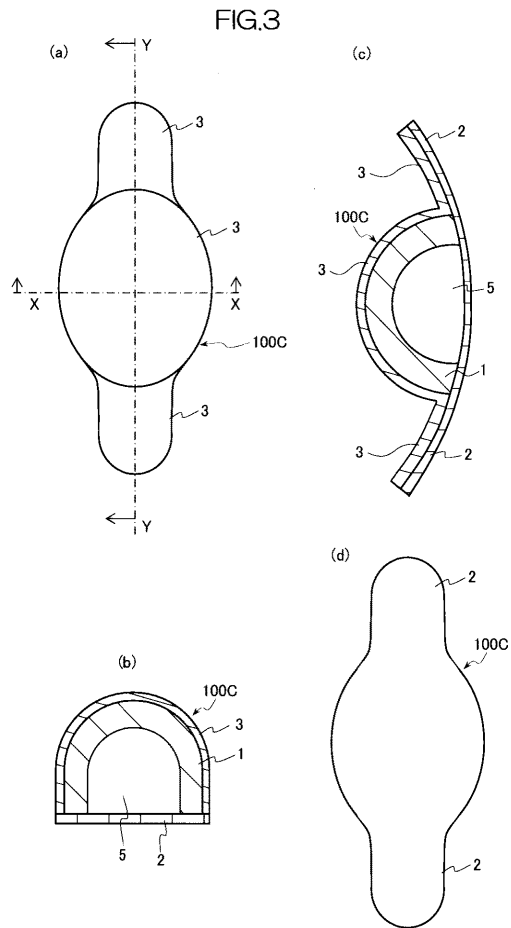
【 図 1 】



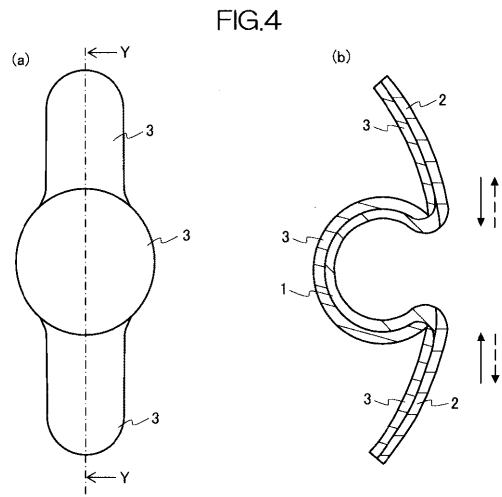
【 図 2 】



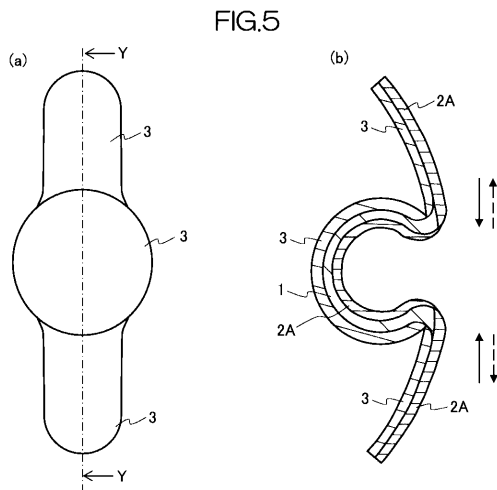
【図 3】



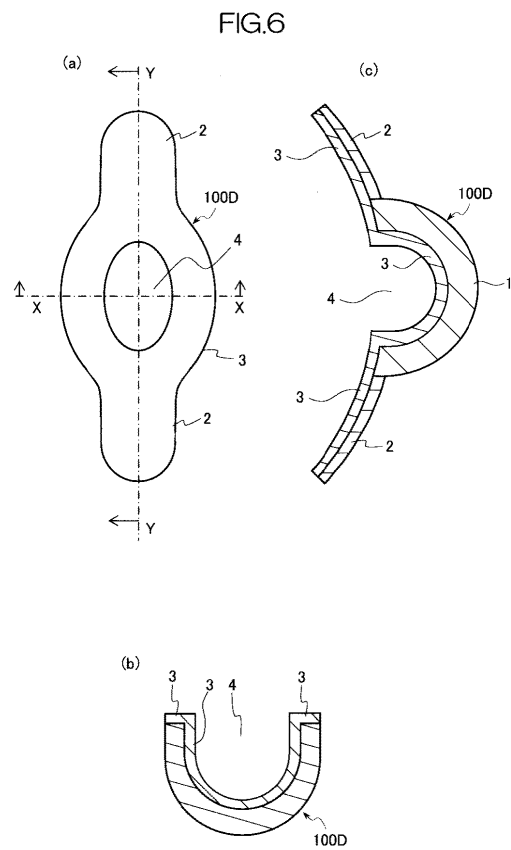
【図 4】



【図 5】

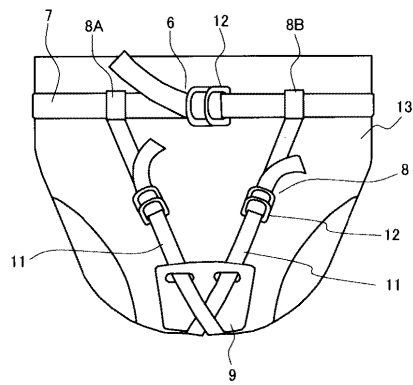


【図 6】



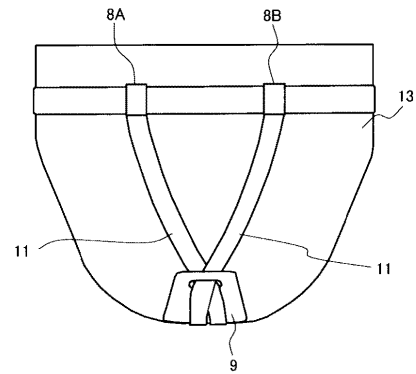
【図 7】

FIG.7



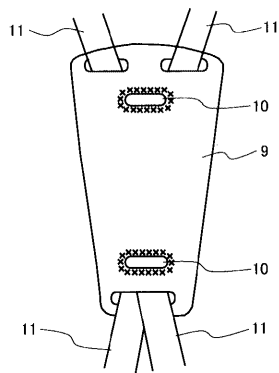
【図 8】

FIG.8



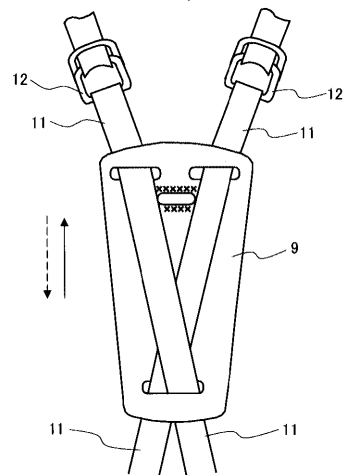
【図 9】

FIG.9



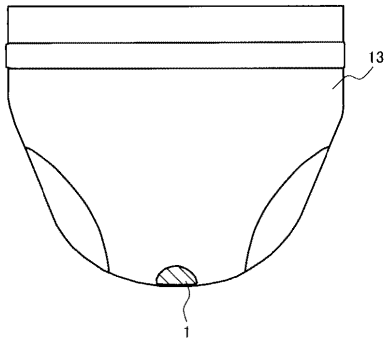
【図 10】

FIG.10



【図 11】

FIG.11



フロントページの続き

- (56)参考文献 特開2004-097697 (JP, A)
欧州特許出願公開第01707163 (EP, A1)
西独国特許出願公告第01050503 (DE, B)
特開平09-220253 (JP, A)
実開昭58-162823 (JP, U)
特表2004-517688 (JP, A)
実開平04-070015 (JP, U)
実開昭57-142520 (JP, U)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A61F 5/37

A61F 5/01